

家庭科の男女共修をすすめる会

# 会報

'94 夏

連絡先

東京都渋谷区代々木2-21-11

婦運会館内

T151

振替 〇〇一九〇・一九一八九一

発行 一九九四年六月四日

四月九日、桜に囲まれた戸山高校記念会館には熱気があふれました。  
ひる前は、高校の家庭科男女共修がスタートした初年度の総会、午後は、「学習交流会 家庭科男女共修元年——踏み出した『進学校』——」。

特に学習交流会は八十名という予想を超える出席者に、用意した資料が足りなくなつてコピーをとりに行ったりました。  
会場の運動には今強い期待が集っています。乏しい力をふりしぼって運動をすすめてみましょう。

## 一九九四年度総会報告

一九九三年度の総括と決算(2ページ)は報告通り承認、一九九四年度の運動方針と予算(3ページ)と世話人(4ページ)は提案通り決定されました。

高校の共修がスタートしたことによって、

「全国の中学、高校で家庭科の男女共修を実現させる」という、会の目的は、名目上は

達成されましたが、これを実質的な、確かなものにするためにはまだまだ運動を続けなければなりません。特にこれからは各地域での運動が重要です。どうぞご協力をお願いいたします。

司会 半田たつ子  
記録・まとめ 梶谷典子

### もくじ

一九九四年度総会報告	(1)
学習交流会「家庭科男女共修元年」報告	(5)
活用して下さい「イメージ一新！共修の家庭科教科書」	(10)
東大寺学園高校をたずねて	(11)
技術科の先生による「家庭生活」	(12)
家教連夏季研究集会のおしらせ	(12)
世話人会報告	(12)
Weフォーラムのご案内	(13)
連絡会報告	(14)
マス・メディアは共修家庭科をどう取上げたか	(16)

〈おしらせとおねがい〉

◇春号でもおしらせしましたように、会の郵便振替の番号が変更されました。新しい番号は〇〇一九〇—一九一八九一です。

◇住所、お名前などの変更はできるだけお早く事務局か世話人にお知らせ下さい。

◇新しい資料「イメージ一新！共修の家庭科教科書」を積極的に活用して下さいますようお願いいたします。10ページをご覧ください。

一九九三年度  
運動の総括

報告 荻谷薫

実際に行った具体的な活動を挙げ、活動全体を次のように総括しました。

I 重点目標のうち、各地の情報は会員や世話人の努力でますますの情報が広く集められ、会報で報告できた。各地での取り組み、実施の状況は今後も引き続き収集する必要がある。

II 学校に出かけたり、議員にあつて要請したり、議会で取り上げてもらおうなどの行動

は限られた地域しかできなかった。各学校、自治体レベルでの取り組みがまだまだ必要な今後にむけて課題である。

III マスメディアには比較的良好な取り上げられた一年であったが、今後も各自治体の条件整備や各学校の実施の状況、「進学校」の取り組みなど、まだまだ取り上げ続けるよう働きかける必要がある。

IV 各地での実施状況は、国レベルでの取り組みへの要請に有効である。今後も関係省庁や国会への要請は欠かせない。

V 世話人会の開催、会報の発行は、当初の予定通りできた。  
VI パンフレットの販売や、会員の入会勧誘

は、個人々人のできる範囲にとどまった。

VII 当初の予定にはなかったが、共修家庭科の内容を広く理解してもらったために、新しく出そろった教科書のうち役立ちそうなものを選んで新たな資料を作成した。次年度に有効に利用したい。

VIII 四月の学習会以外には、人手などの諸条件でイベントはやらす、各地の世話人を中心に情報を集めたり、各地の状況に合わせて活動を中心にしたことでよかった点もあるが、各地での活動の活性化や、各団体との連帯、マスメディアへの働きかけなど、各地で取り組む運動をどのようにおこなっていくかが今後の課題のひとつである。

1993年度決算

報告 榎本稻子

収入の部

項目	予算額	決算額	備 考
前年度繰越	99,417	99,417	
会費	962,500	1,055,000	
集會参加費	40,000	29,600	800円×37人分
雑収入	24,083	18,721	利子とカンパ
合計	1,126,000	1,202,738	

支出の部

項目	予算額	決算額	備 考
集會費	50,000	62,668	報告者資料代、交通費 参加者接待費
印刷費	400,000	303,100	印刷費
送料	140,000	66,945	送金振込料 会報郵送料
運搬費	8,000	0	会報運搬
小計	548,000	370,045	
アルバイト費	260,000	260,000	月2万×13ヶ月 (年末手当1ヶ月分)
事務所借料	84,000	84,000	(借料月6000+光熱費1000) ×12ヶ月分
小計	344,000	344,000	
分担金	10,000	10,000	国際婦人年連絡会 加盟費
通信費	50,000	78,979	世話人会連絡 通信印刷費 電話料、郵便代 はがき切手代
事務費	30,000	30,098	消耗品、事務用品、 長封筒14,450-
雑費	24,000	0	
予備費	70,000	26,032	議員アンケート 高校家庭科教科書検討
合計	1,126,000	921,822	

収入 1,202,738 - 支出 921,822 = 残高 280,916 (次年度繰越)

93年度パンフ代会計

前年度繰越 1,149,103 + 売上げ及利息 17,579 = 1,166,682

一九九四年度  
運動方針

提案 磯部幸江

〈基本的な考え方〉

今年度は、高等学校で共修による家庭科が実施される年である。文部省、各自治体、各学校で一定の努力が行なわれていることは認められる。しかし、実施にむけての施設設備の整備、教員の確保は、決して十分とはいえない。特に、私立高校、男子校の取り組みは遅れている。

今年度は、家庭科の共修が着実に根付いていくよう、より一層各地の情報交換をすすめる。

問題解決のための働きかけを強める。  
また、今年の国際家族年、来年の北京での第四回世界婦人会議にむけて、諸行事にも積極的に参加し、共修の重要性をアピールしていく。

〈具体的な活動〉

- 1、各地の世話人を通じて中学、高校の実施状況の情報を集め、会報を通して会員に知らせる。
- 2、各地で学校訪問を行なう。特に共修の実施が遅れている学校に働きかける
- 3、共修の実施を確実にするために、必要に応じて次のところに働きかける。

- ① 文部省
- ② 各自治体特に教育委員会
- ③ 各学校
- ④ 女性問題担当大臣及び総理府

- ⑤ 国会及び各議会
- ⑥ 教育や女性問題に関係の深い団体や個人
- ⑦ マスメディア
- 4、「イメージ一新」共修の家庭科教科書——を活用する。
- 5、学習交流会「家庭科男女共修元年」踏み出した「進学校」——を開く。
- 6、国際家族年、第四回世界婦人会議の関連行事に参加する。

- 7、次の活動はこれまで通り行なう。
- ① 世話人会の定期的開催
- ② 会報の発行
- ③ パンフレットなどの販売及び活用
- ④ 共通の目標を持つ諸団体との連帯
- ⑤ 入会勧誘

1994年度予算

提案 榎本稻子

収入の部

項目	予算額	内 訳
前年度繰越	280,916	
会費	836,500	3500円× (現会員数 252人 一納入済数13人)
集會参加費	50,000	1000円×50人分
雑収入	10,000	利子、カンパ
合計	1,177,416	

支出の部

項目	予算額	内 訳
集會費	100,000	資料代、交通費
印刷費	400,000	4回分印刷費
送料	100,000	会報郵送料 90円×270人分×4回分
運搬費	5,000	タクシー代
小計	505,000	
アルバイト費	260,000	2万円×13ヶ月分
事務所借料	84,000	(6000円×1000) ×12ヶ月分
小計	344,000	
分担金	15,000	国際婦人年連絡会 加盟費
通信費	80,000	会報外の郵送料 (切手、葉書) 電話料 コピー
事務費	30,000	消耗品 封筒
雑費	28,416	
予備費	85,000	
合計	1,177,416	

一九九四年度

世話人

提案 青山和世

- 北海道 齊藤節子 万城マキ
- 山形県 佐藤慶子 宮城県 西原典子
- 福島県 西内みなみ
- 埼玉県 磯部幸江 榎本稲子 柴田栄子
- 中嶋里美 羽賀紀子
- 東京都 青山和世 芦谷薫 石川光子
- 石川由紀 大平初江 近江真理
- 梶谷典子 駒野陽子 坂本ななえ
- 半田たつ子 樋口恵子 丸山新男
- 和田紀子

- 神奈川県 持田ナミ 新潟県 小野塚サチ子
  - 長野県 山浦恒子 岐阜県 橋本登志子
  - 石川県 木下雅子 福井県 荒井紀子
  - 鳥取県 本橋靖子 島根県 大利良枝
  - 兵庫県 香川敦子 岡山県 丹原恒則
  - 熊本県 立山ちづ子 沖縄県 喜久川幸子
- ☆総会で決まったのは右の三十五名ですが、総会後、神奈川県石渡仁子さんが世話人を引き受けて下さるようになりました。これからでも新しい世話人大歓迎です。事務局か世話人にご連絡ください。

討議から

〈運動方針に関連して〉

●家庭科に対する理解はまだ不十分で、「何を教えたらいかがかわからない」「なるべく代替で」と言っている学校も多いという現状について話し合い、学校訪問が有効であることを確認しました。

●高校共修スタートにあたり、マスメディアも積極的に家庭科をとり上げようとしていることが話題になりました。

NHK教育テレビでは「男と女の生活学」(木旺午後二時。再放送は夜十一時半)が始まりました。その内容と、企画段階で意見を出してある程度効果があったことについて報告があり、この番組に対してこれからも意見を出して行こう、他の番組や記事についても情報を支援し、積極的に意見を出すようにしようという話し合いました。

関連して、「取材の人たちに『家庭科を学ぶと将来の暮しに役立つ』という発想が強すぎるのではないか、『今子供が育って行くのに必要だ』という視点が抜けているのではない

いか」という意見が出ました。

●新しい資料「イメージ一新——共修の家庭科教科書——」によい反応があるという報告があり、積極的に活用して行こうと話し合いました。

「女の子向きの家事裁縫」とは違ったイメージの資料を見て、マスコミや婦人団体の関係者にも驚く人が多いとのこと。「いいことばかり書いてあるのではないか」という批判もあるけれど、今は家庭科が新しくなったことを家庭科の専門家でない人に知らせることが特に必要だと確認しました。

●共修に目を向けるようになったばかりの人も多いので、初期につくったパンフレットも積極的に活用しようということになりました。

〈予算に関連して〉

●資料の贈呈のしかたが話題になりました。販売は積極的にするべきだけれど、贈呈することによって有効に活用してもらえない場合もあるので、特に基準は設けず、その都度判断すればよいことにしました。

●「無報酬で動く人たちのパワーがすごい」「全員が協力的なので会計はやりやすい」など、「この会はすごい」という発言がありました。

学習交流会

家庭科男女共修元年

……踏み出した進学校……

過去3年間「男子の家庭科」をテーマに学習交流会を開いてきましたが、今年は高校男女共に必修で学ぶ春を迎え、この交流会を開きました。参加者は80名でした。

報告

◇埼玉県立所沢高校(男女共学)

柴田栄子さん

所沢高校の男女共修は長年の男女平等教育の運動の成果として、一九八九年に男女1年生にだけ2単位、2年生は女子のみ2単位が位置づけられました。私が92年に着任して早々94年に向けての教育課程編成が始まりました。しかし、家庭科の内容については、教員に理解されていないことに気づきました。

そこで「かていかだより」(※)を92年9月から94年3月まで60余号を配布しました。その中で、家庭科の内容、生徒の反応(生徒の作文)、私が何をねらいとして授業を展開

しているのか、読みやすく、わかりやすいようにB5判1枚に書きました。これは、管理職はじめ他教科の教師の理解が得られてよかったです。

また、93・94年度の埼玉県の研究指定校を受けることになり、家庭科4単位の授業計画(※)と内容を学校の中でも研究指定校の発表の中でも示しました。私の「家庭一般」のねらいは、一つは、生徒一人ひとりが生活者として自立できる力を育てること、生活や生命を愛しみ自分の生活を健康に快適に維持管理していく力を養いたい。二つ目は、生命や生活を社会との関連で考えさせ、そこにある問題課題に気づかせて、生活変革の意欲と実践力を養うことをあげました。かつて

の家庭科のように、わが家のくふうとか、生活改善運動のように狭い家庭内のことだけでなく、グローバルな視点を入れて、食卓が世界と繋がっている、ごみ問題が世界の資源問題に関わっているという認識、消費者として何を買いどんな暮らしをするかは、経済より、

司会

芦谷薫 和田典子

記録・まとめ

青山和世

生き方、価値観の問題である、そういう価値観形成をねらいとするような計画を立てました。

前半2単位は男女共に、後半2単位は女子だけですが、4単位を終えて、生徒は私の意図をよく理解してくれたと手応えを感じています。私自身授業をしながら20年目を迎えますが、家庭科は、やってもやっても尽きない魅力のある教科と感じます。

授業展開に伴う諸課題と対応策について、特に強調したいことは、新しい家庭科教育の理念の確立と徹底と、これを広めることだと思えます。生徒はいろいろなことを知らないから、つい雑多なことを教えたくなってしまいが、連なりのないこと、現実感のないことを教えても一つも効果がなく、かえって学習意欲を失ってしまふ。実習内容は、実習を踏まえて理論を、理論に関わる実習を考えていきたいと思えます。

一人の人間として人間らしい生き方をしていくうえで、世界の国々と連帯し共生してい

くうえで、すべての人が人間らしく生きていくうえで、どういう考え方をし、どういう生き方をしているか、を考えるきつかけを与える教科というふうに考えていきたいと思っています。

(※希望の方は、一冊500円+270円  
送料)〒359所沢市久米1234 所

沢高校 柴田栄子宛)

◇早稲田大学本庄高等学院(埼玉・私立男子)

鳳間益人さん

早大本庄高等学院は開校13年目の1学年二四〇名の男子校で、早大2番目の付属高校です。開設10年で、進級の基準、成績の評価のしかた、2学期制から3学期制への転換などの見直しの準備が始まり、改革していく方向の中で、新教育課程、家庭科男女共修のカリキュラム検討を始めました。3年前からの学習交流会に参加させていただきながら、また、和田先生を講師に研修会を持ったりしながら、家庭科を増やすかどうか、他の教員の理解が必要だったという他校の例と同様に、しばらくは家庭科はどういう教科なのかという勉強をしてまいりました。

自慢できるようなご報告は何もないのですが、「生活一般」を第1学年で2単位履修し、3年次に2単位、いくつもある選択科目(17)

の中に家庭科も置き、その選択をとらなかつた者は3年次に増加単位になっている体育の1単位を代替することにし、家庭科増加分の2単位増やして週34時間にならないで、週32時間を守り、当分の間第2土曜日を休みにしないとの確認をし、新教育課程編成を行いました。

教える人材の問題が途中から出てまいりました。採用は大学理事会がしますので、1年前に公募し、1年前に内定をし、1年間は嘱託として打ち合わせごとに来ていただく形で、この3月まで埼玉県立寄居高校におられた大塚恵美子先生をお迎えしました。

私立の場合、カリキュラム変更は学則変更として、県や都に届けなければなりません。人の問題も解決して埼玉県学事課に学則変更を出したのですが、10月末あたりから指導が始まり、県内45校の私立高校で、どの学校も4単位代替を含め届けが出ています。代替をしてもカリキュラム表上単位不足なのは、そちらの学校だ、ということ、1月になってさらに強いご指導をいただきました。

初年度はこれぐらいかと思っていましたが、東京練馬区の兄弟校早大高等学院が代替なしで、「生活一般」2単位で決定して東京都学事課に打診したところ、「このような単位不

しかし、開講当初4単位実施で踏み切っておりませんので、文部省、国の助成金は全然もたえない状態です。校地の中にある大学の施設を一部改修しまして、家庭科室を作りました。一〇〇㎡の中に調理も、被服も座学も、会食もできるようなコンパクトな家庭科室と準備室(70㎡)で家庭科が来週から展開されようとしています。

◇早稲田大学本庄高等学院

大塚恵美子さん

公立から私立に移りましたので、戸惑いがありました。しかし、本庄高等学院のほうが、3年間家庭科に対しての職員間での共通理解を充分にしてある学校であるということを行きました時に肌感じました。

施設・設備ができておりませんので、大学のほうから与えられた3階部分の教室の条件にあわせて、48名の生徒で使うことを考えて具体的に校舎の中どのような施設・設備をとりつけるか、昨年の夏休みまでに図面をひいていきました。業者に見積もりをとってもらいました。2階が音楽、隣りが体育館ということで、音楽・体育の先生が入って出発の打ち合わせが9月に行われました。熱源はガスの換気が難しいということで電気とか、細かいところまで会合を持ちまして図面上の

足では学則変更を受理しません」といわれたとの情報が入ってまいりました。埼玉県でも指導を受け、学習指導要領附則の「生活一般」の「当分の間、……『体育』……」の代替も今年度限りだろう。文部省も最初はゆれていましたが、男子家庭科元年に対して強い姿勢で臨んでくるようだ。助成も行ってきていて、平成四年五年補助を受けた学校には整備がなされたのみならず、七年度以降は代替をも認めない方向で動いてくるだろうといわれ、東京都のように学則変更を受理しないとはいいませんでした。埼玉県では他の私立高校は、「届けはちゃんと出していますよ」つまり、実際にはやらないこともありそうな雰囲気でお話しがされたんですけども。急遽年度末に検討をしまして、家庭科の必修の重みを考え直して、今1年生に入学した生徒達が卒業するまでの間に家庭科を代替もなくし、4単位やろうという方向で6月末に県に届けようとしてこの3ヶ月で急ピッチでもう一度検討し直します。そういう中で、専任教員の家庭科の先生がいて、討論の中で説明がされて他教科の教員の理解が深まるに従って、全教科がまとまった形で生徒を育成していくうえで家庭科が力強い形に加わってくれたのだという共通認識を持てるようになりました。

上げるのが重要なので家庭科はなじまないとか、表面上やったようにして集中講座でお茶を濁そうとかいろいろ意見が出ました。うちの学校の場合、理科1、現代社会などもそのつど、それぞれの内容をきちんとやってきたので、家庭科をやらなかったことにするというのは流れとしてもおかしいのではないかと、一学年20〜30名の推薦入学者の評価も平等の原則からはずれるのではないかと、いまして、家庭科をやる方向になりました。学校の中の担当が必要ではないかということになり、公募して私と体育の教師が日本女子大に聴講生で行くことになりました。92年から94年3月まで在席して39単位、93年10月から94年3月まで放送大学で8単位、家庭科の必要47単位を取得してこの4月16日に家庭科の免許を申請することになっています。

これまで炊事とか家事とか一切やったことがありませんでしたが、この2年間で自分のことは全部自分でやれるようになりました。材料からかたづけまで6時間ぐらしかかるので月に1回が限度なのですが、習ったフルコースを家族に食べさせて、家の中の雰囲気も親子の会話もはずむようになりました。

カリキュラムをどうするかについては、前回まで体育を重視して2時間多く入れていた

のを家庭科にし、あとの2時間は、中学校から高校まで学年を構成するメンバーで1年かけてやるホームルーム特活から、高1と高2で1時間ずつとることができました。

特別な施設は一切使わず、新聞教材で生徒たちに自分で学んでもらおうと考えています。高1では消費生活と消費者、高2では食生活、食品の衛生、安全について、VTR専門の職員がいて二、三千本分類されてあるので、教科書と、生徒の新聞教材の発表とVTRと、来年度来ていただく講師の先生と話し合っ、教えなければいけない必要最小限を私が教えようと思っています。

◇正則高等学校(東京・私立男子)

永原三千郎さん

正則高校は1学年9クラス、一二〇〇人規模の男子校で進学校ではありません。私は主に授業を担当する教科指導部長でカリキュラムに携ってきましてお話しします。

家庭科の導入は教職員の間に違和感はありませんでした。2年くらい前から文部省学習指導要領に必ずしもとられないで、私達独自に新教育課程を作り上げようと動き始めておりました。質の面から授業内容をしぼりこみ、カリキュラム作りを進めてきて、総時間で11時間のしぼりこみができて、その中の4

時間(1年生に2時間、2年生に2時間)を家庭科にあて、総時間としては、これまでと変わらず週31時間。

科目は「生活一般」を選びました。新しい家庭科の先生をお迎えするにあたっては苦慮し、4回公募して、教育的な目で授業作りをしていくという面から納得できる候補者がなかなか見つからなかったが、最終的にはお迎えできました。

家庭科の部屋を作る余地はなかったので、妥協的に3つある理科室のうち物理関係の実験室を改造して、当面は理科と家庭科で使うことになりました。

私はたまたま現代社会で1年生に教えるが、柴田先生のお話を伺っていると私の現代社会の輸入食品、食糧自給、ゴミ問題の授業と重なり、半分くらいになってしまふなと思ひ、社会科の先生との関係はどういうふうになっているのか聞きたいなと思ひました。

◇独協中学・高等学校(東京・私立男子)

小川正成さん

独協中学・高校は、中学4クラス、高校6クラスの男子校で、中学校のカリキュラム表上、技術科が3年に1単位あることになっていますが、当分の間美術2と付記があり、これが10年以上続いています。今日は組合の代

英語科、国語科に一人ずつ入りました。

### 話し合い

司会 現代社会と家庭科との関連について  
永原 私の現代社会は、ハンバーガーの授業から始まるわけですが、岡持にいろいろなものを入れて教室に持っていくます。しかし、良い意味でダブってくるし、家庭科のほうが優利だと思っています。

柴田 家庭科はより社会性を持たせ、他教科はもっと生活に関わりあることを教えていかなければならぬと考えてきました。

「バナナと日本人」という社会科の先生の教材にヒントを得て、「エビと鯛と日本人」の授業をつくりました。最後には鯛を調理させ、食べさせられるのが、家庭科の強みだと思ふんです。基本的に大事なことはあっちこちでいうことが大事じゃないでしょうか。私は生徒に書かせます。すると、自分の家の問題点を書いてくれます。それを種にしながら授業をつくっていく、生徒に返していきます。

家庭科が受験に不利だというんですが、90単位近くの中のとった4単位でどうして不利

表という立場で来ました。

高校のカリキュラム検討委員会の長が「生活一般」の教科書を見て、実習部分を除けば2単位ぐらいで納まるといっていました。しかし、他校の学則改定に関して、東京都の学事は4単位でやるように厳しく指導していることがわかったので、表上「生活一般」を高1と高2に2単位ずつ置くが実際は高1だけではかせず、高2では集中講義のレポート(二七〇人分)を書かせて講師の家庭科の先生に見てもらうことにしました。

その2ヶ月半ほど前に組合の教研に和田先生に来てもらって、そこでなぜ家庭科をやらなければいけないかがわかったのですが。

学事に副教頭が持っていたら、1年間2単位(60時間)も特別授業は無理でしょう、この時期だから、3単位で勘弁してあげようといわれ、3月10日にPTA会報に載せたカリキュラム表から、1ヶ月もたたないうちに4単位から3単位に減ってしまいました。

これまで手をこまねいてきた組合も責任があり、新校舎の建設が遅れているので、その中に家庭科室を作って、生徒に家庭科をさせたいと思っています。

◇洛星高等学校(京都・私立男子)

寺井治夫さん

なのでしょいか。

半田 家庭科と社会科との間にこそ私たちが掘り下げていかなければならないものがあると思ひ、学習交流会のテーマにしてもいいと思ひながら聞いていました。

広田 進学校で家庭科をやった場合に、プラスかマイナスかということになれば総合的な知識量でプラスになると思ひます。

山崎(NHKディレクター) NHK教育「男と女の生活学」の放送を担当しています。とりあげてほしい内容を送っていただけでは番組に反映していきたく思ひます。

松井(男子校教員) 私も男子の進学校で始める者です。柴田先生の指導計画を見てすばらしいと思ひました。同じようにやりたいが実習室がないこと、生徒に書かせる時の生徒のプライバシーについて教えていただきましたと思ひます。

柴田 生徒は調理実習を喜びますが、2単位の授業で5回です。実習室がなければ、討論したりすることも実習だと思ひています。

生徒の書いたものは、名前を伏せ私の字で書き直してプリントし、生徒に返しています。

洛星高校はカトリック系の男子校で全員大進学希望で、中学校4学級、高校6学級で全人教育への願ひをもった学校です。

施設については、3年前に教務部の人達が文部省がやらせるだろうと判断し、校舎改築計画の中に、はめこんでしまったわけです。

私は、2年前の1月に家庭科を開くための臨時委員に選出されました。個人としては、高校教育の中で、普通科で進学を目指すとして、どうしても机の前で勉強することに傾きがちで、具体的な事柄にふれることによって、ものを考えていくというものはなかったわけなんです。家庭科によってそういうものが引き起こされてくることにうれしと思ひがしました。

家庭科の積極的な意義として、①生活科学の学習、②総合学習の場、③実習・実地の体験 ④家庭を築くための課題 を考えました。④では私の学校でたち遅れている人権教育・性教育についてもふれていけると思ひました。教師のかまえ方、願ひの持ち方が家庭科成立の一つの方向性になるのではないかと、家庭科がうまくいくかいかないかは、私共の学校で全人教育的な意味がどこまでできるかにかかっていると思ひます。

そして、待望の女性教員が3人、家庭科、

活用して下さい

「イメージ一新」

—共修の家庭科教科書—

半田 たつ子

男女共修の家庭科元年にふさわしい教科書が出来たのだろうか？ これは家庭科に関心を持つ多くの人が知りたいことでしょう。「国際家族年」に当たって、私達の会が取組むべきことは何か？ というもう一つの課題と結んで、世話人会で新しい高校家庭科の教科書を取上げようと決まったのは、昨年の夏でした。

どういふ観点から教科書を取上げるかの議論を重ね、今回は、女子必修時代の教科書が、男女共修に伴って改善されていることをアピールすることに決定。これまでの教科書に関する研究や発言は、問題点を指摘し、改善を求めるといふ側面が強かったのですが、男女共修になることで家庭科は変わったのだという印象を大勢の人に持つてもらうことが大事と考えたからです。

家庭科の教育的意義の理解をすすめるため

に、幅広く取上げようとの意見もありましたが、多様な家庭科教育観があり、観点のおき方が難しく、今回はすべての人の共通理解が得られる、男女共に学ぶにふさわしい教科書かどうかに限定し、私達のコメントをつけず、教科書をそのまま紹介する方法を選びました。

それぞれ多忙な世話人が、この「事業」に取組むためには、共通の時間に集中せざるを得ません。世話人会で準備を重ねた上合宿をしてまとめようということになりました。会の出発当時、箱根で合宿をしたことがありますが、今回も箱根、半田のお気に入りの大きなオルゴールがあるペンションに予約しました。

当日は、35年ぶりの大雪、一同、予定より三〜四時間もかかって、へとへとになって到着。早速作業を開始、メドがついた夜中は、疲れもふきとぶ思いでした。

翌朝はまぶしい雪晴れ、もうひとがんばりして、予定をこなし、帰りもまた交通機関に難儀を重ね、ようやくして家に着きました。忘れられない合宿となりました。

三月に入って、都合をつけた世話人数人が半田の家に集り、二日をかけて版下づくり。原稿を印刷所に送ってほっとしたのでした。この作業には、世話人のほか千葉の本橋幸

子さんが合宿に参加、近江真理さんが版下作りに加わって下さいました。会員の方のお力添えを得たことに感謝しています。

教科書を分担して調べてみると、うれしくなるような記述も多く、よくできている教科書の採択率が高く、家庭科の先生の見識に敬意を持ちました。ピックアップの際には、なるべく特定の教科書に偏らないような配慮もしました。これで一冊の教科書ができてい

のなら、満点という感じにまとめられました。会員の皆様、ぜひお手にとりて見て下さい。家庭科は料理・裁縫という古臭いイメージを持ち、そこから論じている人にこの冊子は有効に働きます。多くの方に広げていただきたいと願います。既にまとまった注文も届き、評判は上々です。

一部二百円、送料実費(十部以上は送料無料)、注文は半田に葉書でどうぞ。振替用紙同封でお送りします。

〒182 東京都調布市

西つつじヶ丘2-25-14

半田

奈良

東大寺学園高校を

たずねて

藤本了江

今年から全国の高校で家庭科の男女共修が始まる予定の下、教科書も選定しなければならぬ。去年の五月、その実現が心配な関西屈指の私立男子進学名門校の一つ、東大寺学園高校へ、学校訪問の希望を伝えると、「家庭科は実施するつもりで夏休みに工事計画中です。担当教師もまだいないので」と一応明るい見通ししながら、婉曲にお預けを言い渡された。そして九月に基礎工事ができ、「今年二月家庭科教室の建築が完了し、月末に設備が整う筈ですからそれから見に来て下さい。」といわれ、三月三日やっと坂本智恵子さんとの訪問が実現しました。

近鉄京都線「天の原」で下車、車で約十分、奈良市山陵町に中学と併設で新しい校舎があった。生徒は奈良、大阪、京都から通学しており、学級数は中学が四学級制で、高校は入試で一学級増やして五学級制。

目指す家庭科教室は、普通教室から渡り廊下を隔てた別棟。八千万円をかけた総面積五十五坪余の鉄骨平屋建。下足箱からスリッパを借りて白木の床の教室に入る。冷暖房空調完備という明るく広い部屋。八台の生徒用ステンレス調理台(レンジと流しに金属板を置けば大きい実習台になる)が並び、前に弧を描いた教師用調理台、その前は分配用ワゴンが移動できる空間がとってあり、上に吊下式反射鏡、両脇に四台のテレビが取りつけられ、後の壁は天井まで食器収納戸棚で、移動式踏台が附いている。両側の窓下は、流し台と作業台が四セットとロッカー。片方に屋内式ガス給湯器、片方に洗濯機、掃除用具入及び流し等が配置されていた。隣りは家庭科準備室。本棚、机、調理台、食器棚、作業台、冷蔵庫、給湯器など学校側としてはできるだけのこと

はした。と云うだけあって先づは快適に使えそう。調理用具や食器類は担当教師の着任後、その指示に従うとのことでした。

入試直後とのことで来校者が多く、教務主任に会うことができず、事務長などから話を聞いたが、教科は「生活一般」を予定しており、社会科と理科から捻出した二単位を一年でやるが残り二単位は未だ決まっていない。一年の二単位は主に食物にあてるが、他に何

が男子生徒のためによいか思索中との事。将来は高一で三単位、高二で一単位の計四単位にしたいとのことであったが、東大、京大などを目指す名門進学校としての教科の上での思わくは、学校要覧は去年度のもので教育課程欄の家庭科に記載はなはつきりと聞き出すことができなかったことは残念であった。教育方針として1、基礎学力の重視。2、進取的気力の要請。3、豊かな人間性の形成。を標榜している。これ迄同じ進学名門校といわれる洛星高校と連絡をとってやって来たという経緯から、私達が割と好意的に迎え入れられたのも納得できそうだ。

生徒達の現実を見る目を養い、生きていく力になる家庭科が、生徒達の胸にしっかりと受けとめられるようにと、種々の自主編成や授業実践をのせた家庭科研究や、家庭科の歴史、男女共修の資料を贈って礼を述べると、「途中で家庭科の中止なんてことにならないようにして欲しいのですね」と云っておられたのは経営者としては本音であろう。残りの二単位を家庭科として確立してもらおうが、その内是非教務主任や、着任早々物品購入や予算の計上、授業準備など多忙を極め、開校以來始めての家庭科を実践しておられる非常勤講師の方に会いたいものと思っている。

## 技術科の先生による

### 「家庭生活」のとりくみ

浦和 伊 深 祥 子

(埼玉県)浦和市では、「家庭生活」領域を技術科の教員が実施していくことが教育課程の一例として考えられています。昨年はすでに技術科の先生による「家庭生活」の授業の研究授業も行なわれています。家族をあつかう「家庭生活」の授業が男の先生の立場で展開されるのは大変喜ばしいことですが、手放しでは喜ばないものがこの事実にはかかれています。

まずなぜ技術科の教員による「家庭生活」が考えられたのでしょうか。男の立場で家族の内容を教えたいという積極的な気持ちからはありません。生徒数の減少により、教員数は削減されてきています。特に、技術・家庭科は、一つの教科とされていますので、四人を三人に減らす、あるいは三人を二人に減らすという場合、ほとんどが家庭科の教員が減らされているのです。技術二人、家庭科一人の定員で、家庭科担当が三年生の担任を持つ

## 家教連夏季研究集会のおしらせ

日程 七月二十八日(木)～三〇日(土)  
会場 長野市旭町「勤労者福祉センター」  
参加費 五五〇〇円(学生三〇〇〇円)  
宿泊費 八五〇〇円(一泊朝食)昼食千円  
主な内容  
第一日 ○記念講演「国際家族年と家庭科―子どもを主人公にした授業づくり」(日本福祉大学・増山均氏) ○基礎講座「ど

た場合に、一年生の全部の授業を家庭科担当が受けもつことがむずかしくなるのです。技術の先生もやりたくて「家庭生活」を授業するのではないのです。

こういう状況で心配されるのは、授業の内容です。技術の先生からは、木材加工の中で家庭生活を扱う内容があるという発言がありました。どんな内容なのでしょう。コンピュータでの家庭経済の授業で「家庭生活」ができたというレベルの考え方ではせつかくはじまったこの領域はどうなってしまうのでしょうか。嘆いてばかりはいられません。現実にはじまっているのです。家庭科の担当ですら、「家庭生活」の領域は模索中という状態です

うしてこんなに米不足」「男女でできる被服製作」ショートパンツを作ろう」ほか

○交流会  
第二日 小・中・高・障害児別分科会  
第三日 ○全体会 ○特別報告「マツシロと平和」(長野工業高校・北原孝子氏)  
○松代大本営跡見学  
詳細は「月刊家庭科研究」六・七月号に掲載。問い合わせは榎本世話人へ  
(〇四八―八三二―七三三三)

が、技術科の先生に講習する力をつけなくてはならないのかもしれない。

## 世話人会報告

三月二日

総会、学習交流会のすすめ方と、教科書検討の結果のまとめ方を中心に話し合いました。93年度総括案については、教科書検討のことを強調するように、94年度運動方針案については、各地での情報集めや学校訪問を優先課題とすることにしました。  
○決算、予算案について話し合うなかで「時には弁当が出てよいのではないか」「電車

賃も、会」の予算から出しては」という意見

も出ましたが、「食事代や交通費は自前、切手代コピー代は、会」の予算で」という原則を再確認しました。

○東京の近江真理さんが世話人を引き受けて下さることになりました。

○「イメージ一新―共修の家庭科教科書」の体裁や作成のスケジュールを決めました。

(梶谷典子)

四月九日

学習交流会が、八十名からの人数が集まり盛会だったこと、いよいよ共修が初まるのだという実感も高まり、夜の世話人会も今後の取り組みにむけて大いに盛り上がりました。

一、総会の総括(総会報告参照)

二、学習交流会の総括(報告参照)

三、運動方針にそって今後の運動

(一)、各地での情報集め、学校訪問の依頼。世話人との連絡をさらに密にしておく。

(二)、文部省への働きかけ。非常勤の採用が多いことへの抗議、通信教育で家庭科の免許をとれる大学が少ないことなどを時機をみてうったえたい。

(三)、イメージ一新―共修の家庭科教科書のパンフを積極的に活用する。マスコミへピーアール。集会で宣伝。各地の世話

人の方々も宣伝を。

四、家族年に関連して。独自では特別の取り組みをしないが、家庭科の授業ではぜひその理念を扱ってほしい。

(磯部幸江)

五月八日

情報交換

●共修が始まったことがテレビでも新聞でもよく取り上げられていること(16ページ参照)

●男性の家庭科教員志望者がふえているのに大学で受講希望者を受け入れ切れないこと。  
●中学で家庭科教員が減らされる傾向があること(12ページ参照)

●女子だけでなくクラス全体を教えられる

## Weフォーラムのご案内

Weフォーラムは、「いろはの異」(わたしたちは、みんな、ちがう。そして、ちがうことが、おんなじ。ちがいを認めあって、そこからWeになる。)をテーマに、八月六日(土)～八日(月)まで昨年と同じマウントビュー箱根にて開かれます。全体会は戸田三三冬さんと共に「アナーキズム

ようになつて本心に気がいいという体験談をきき、共修になつてよかった、これまでもがひど過ぎた、と話し合いました。

○討議・決定したこと

●文部省、女性問題担当相には連絡会を通じてできるだけ早く働きかける。文部省に対しては、特に私立校の問題があること、大学の教員養成が送れていることをうったえる。その結果をみて国会議員に働きかける。  
●東京の私立進学校のカリキュラムを集めた上ひとつひとつの学校に働きかける。  
●連絡会の要請により、従軍慰安婦(日本軍慰安婦とよびたい)、無報酬労働(主婦、ボランティア等)について討議。

(梶谷典子)

と家族」を語り、分科会は、くらしと教育をつなぐWeならではの多彩な集いがあります。家庭科に関しては、共修家庭科での性教育、草木染め、アイヌのししゅう、家族、エイズに関して、共修家庭科情報交換など。出会いを楽しみに、お待ちしております。参加費七千五百円。宿泊費一泊一万五千五百円。詳細は、We編集室稲邑まで。  
TEL 045-974-3101 子共活動有。

## 国際婦人年

### 連絡会の動き

和田 典子

二月から三、四月にかけての連絡会の主な行動と関連組織の動きをお知らせしましょう

A、北京会議への日本政府報告に対して、民間の意見をきく会

北京会議準備のため、日本国内委員会NGO部会(有識者会議)は、三月一日民間団体の出席を求め集会をもちました。教育関係団体として「会」からは和田が出席して、①男女平等を教育の基幹文書に明記すること、②教育行政の意志決定ポストが男性によって占められているため差別撤廃措置が後まわしにされている現状を改善すること、③男性と女性の意識ギャップをゆるめるための教育行政をすすめること、などを報告にもりこむよう提言しました。各分野からも発言が相つき、報告への反映が期待されました。

### B、NGOフォーラム計画委員会

三月三〜五日の協議会と総会がニューヨークで開かれ、連絡会から中村道子世話人と奥村祥子(日本汎太平洋東南アジア婦人協会)の二名が参加しました。二五〇団体、三〇〇名が出席し、基本方針やモットー、参加、運営などについて話し合われたといえます。なお、連絡会の北京会議への参加は正式に承認されました。

### C、東アジアNGO女性フォーラム

前号で御知らせした標記についての準備がすすみ、今秋10・21(金)は江の島で22日は東京の日佛会館で一般公開のシンポジウムが開かれる予定です。(詳しくは後報で)そのための経費約八五〇万円の工面が当面の課題とか。

### D、北京NGOフォーラムへの参加

参加未定の団体が多いので、再度アンケートをとって参加規模や滞在期間をきめ、必要な手続きをすすめます。参加希望の方は和田(TEL・FAX、〇三・三四六六・二六六五)までご連絡下さい。

なお、日程は95年八月三〇日〜九月八日(ウイメンズフォーラム)九月四日〜九月五日(政府間会議)NGO代表を加えるよう

要請中。その前の北京にむけての準備会議などについては既報の通りです。

### E、年金制度改正に対する要請

年金審議会が改訂が検討され、答申をうけて国会へ法案が提出される予定なので、連絡会では左の要請を提出しました(3/1)

(1) 六〇才からの満額支給 (2)、パートタイムの厚生年金への加入促進、社会保険料特別扱いの廃止、(3)、厚生年金と遺族年金併給禁止の見直し、(4)、三号被保険者の費用負担増をきき、公平になるよう抜本的に見直す。

### F、女性問題担当大臣への要請

現在の女性問題担当室を「男女共同参画推進室」に、婦人問題企画推進有識者会議を「男女共同参画推進審議会」(ともに仮称)に改組して法的に位置づけることが決定し、九四年度予算が一億円つくことになりました。

そこで連絡会では二月十七日代表四名が武村担当大臣と面会し①名称を分かり易いものに、②審議会委員が各省の利益代表にならぬよう要請しました。

### G ユニフェム国内委員会

三月一日、連絡会ユニフェム委員会の全国

レベルの国内委員会総会が、池袋駅西口のエポック10に於て開かれました。

主な議題と決定したことは次の通りです。

(1)、連絡会ユニフェム委は、地域等委員会に性格がえした。

(2)、高橋久子氏の最高職転出に伴う役員の変更と新年度役員がきまった。

(3)、日本国内委員会は、カンボジア支援プロジェクトに参加し年一万ドル、三年間送る。

(4)、事業および財政報告と新年度計画。

総会につづいて、写真家大石芳野さんの講演、カンボジアの女性たち、をききました。

### H 連絡会ユニフェム委員会

三月八日の総会をうけて地域等委員会をひらき、役員選出細則をつくることや新年度の事業として、手描きの繪ハガキを作ること、財政についての協議など行いました。

### 1、九四年度総会にむけて

日時、五月十三日(金)後一時三〇分

議題、会計報告、活動計画、役員改選、会費値上げ(年一万を一万五千円に)

分野別委員会では、右にむけて一せいに新年度の方針や計画にとりくんでいます。(四月末現在)

### J、連絡会

#### 国際家族年シンポジウム

#### 「家族ってなあに」

94春号でもお知らせしましたが、連絡会としては初めてのシンポジウムを三月十九日(土)の午後、婦人会館でひらき盛会でした。

集会には加盟三一団体、マスコミ四社は合計約六五名が参加し、家族の現状や問題点、今後の課題、社会的サポートへの要求などを話し合いました。

#### ◎各団体からの報告・発言のあらまし

①子どもの立場から(新日本婦人の会・高田公子さん)は家族バラバラの生活が強いられ、子どもの発達権がおかされている問題。

②日本主婦同盟・鈴木賀子さんは、「夫・妻のいい分」を調査した結果、解放されぬ主婦のなやみ、自立できぬ夫の不安が分った。

③退職婦人教職員全国連絡協議会・山下正子さんは、介護の負担に耐えかねた家族のシングルバーハラスメントが起きている。血縁家族とする枠組を打破し社会的サポートを強めるべきだと主張。

④家庭教育研究者連盟・丸岡玲子さんは

教科書が描く家庭像を紹介し改訂学習指導要領の問題点と、それをのりこえる家族・家庭の内容試案を提言。

⑤日本婦人法律家協会・江上千恵子さんは夫婦別姓についての協議状況や離婚事例にみる動機の様がわりや、男女間のギャップなどについて報告しました。

以上をうけて、フロアから出された補足発言としては⑥日本青年団協議会からは「地方では『家』問題から自由恋愛が阻まれている」⑦全商連婦人部は「不況による営業不振のため自殺が七〇件も」⑧看護協会から「訪問看護ステーションが発足した」との報告。『連合』は「育児・介護は家族機能から外す施策を」などが提起されました。

話し合いのなかで、「民法規定の見直し」「男女平等教育を公文書に明記」「ILO一五六号条約批准と勧告の実施」などの要求も出され、今後の行動について示唆が得られました。

以上を総括して、関係団体では「異なる意見は整理して討議を深める」「政府側の家族年連絡会議との意見交換会を行う」ことを決めました。

## マス・メディアは共修家庭科を

### どう取上げたか

半田 たつ子

時事通信のS記者のインタビューをうけたのは二月の末だったと思う。彼女は「変わる高校家庭科」という五回の連載記事を配信、三月半ばから四月初めを第一回として、地方紙が連載し始めた。初回の見出しは「総合的な教科へ 福祉、環境問題も重視」というもので、「男女共修を意識した新しい家庭科の教科書」の写真入りだ。地方の方には、貴重な情報だと思う。

三月二一日(毎日新聞)三月二八日(朝日新聞)は社説で、男女共修家庭科への期待を述べた。毎日は、新しい家庭科はむしろ「人間科」といったほうがふさわしいとし、「生活に根ざした授業は、これまでの抽象的な知識を雑多に詰め込むテスト用、受検用の教育に、春風を吹き込むことになるのではないか」。朝日は、男女平等を妨げる「隠れたカリキュラム」を温存させた意識を、家庭科共修が拭い去るきっかけになることを期待し、

また男性家庭科教師の誕生を歓迎している。

◇  
四月九日の学習交流会の案内を読売新聞が載せたところ、毎日教本の電話による問合わせがあり、計三十本を超えた。北海道からどうしても参加したいという電話もあり、タイムリーなテーマを取上げてよかったと思った。新聞では、朝日東京本社の特記者が事前に取材に来た。彼女は四月一七日付で学習交流会の記事を、翌一八日教育欄には「男子も家庭科『役に立つ』授業を工夫し」として大きく報道した(一七日の見出しが、「高校の家庭科必修 戸惑う私立男子校」だったので、北海道からの参加者は憤慨、そんな後向きな会ではなかったと、朝日に抗議。翌日の見出しはその効果か?)

朝日のカメラマンから「写真ルポを考えているのだが」と問合わせ。朝日・京都支局からも電話取材があったが、記事はまだ見えない。公明新聞も一九日付で、交流会の写真入りで正確にレポートした。

◇  
「イメージ一新」を各マスメディアに送ったところ、信濃毎日から「改善されたポイントをピックアップすることにより、共修が目指

すものが明確になった。機会を見て紙面で紹介したい」との便りがあった。

◇  
NHKでは、一六日衛生第二「素敵な土曜日」で五分ほど取上げ、国際局では、ラジオジャパンで海外に知らせるからと、ともに電話取材があった。若い女性は20年も前から?と驚き、運動の理念は当時も今も変わらないと知って再度驚く。

NHK「くらしのジャーナル」で取上げたのがと、Tディレクターから何度も電話があり、その都度資料を送っていたが、いよいよ五月三十一日に決定したと、T氏が訪ねてきた。「小学校の家庭科はきらいだった。高校の時、女子のみの家庭科は聖域の観があり、あの家庭科室に男子が入るイメージが掴めない」という彼と話し合うこと二時間半。鋭い人だが、どんな切り口を見せるのか心配だ。この会報がお手元に着く時は、既に放映済みだが、どんな番組に仕上がったかは次号に譲りたい。何冊かの本を「借りて」T氏は、連休明けまでに読破するという。彼の勉強に期待したい。

さすがに忙しい三、四月だった。